

令和7年度 晴日荘地域連携推進会議議事録

1 開催日時 令和8年1月22日(木) 午前9時30分から午前11時40分まで

2 開催場所 しずく予定住居 食堂リビング(犬山市字仲畑77番地3)

3 会議構成員の出席状況

(1)出席した構成員 利用者代表、利用者の家族代表

社会福祉法人犬山市社会福祉協議会障がい者地域相談支援センター
相談専門支援員、犬山市健康福祉部障害者支援課職員

社会福祉法人まみずの里統括・晴日荘管理者・事務長・事務員 計8名

(2)欠席した構成員 民生委員 計1名

4 議事の経過の要領

(1)開会あいさつ

晴日荘管理者より、本会議の趣旨について説明した。

(2)出席者の紹介

出席者全員による自己紹介を行った。

(3)社会福祉法人まみずの里の概要説明

晴日荘管理者は、犬山市心身障害児(者)父母の会を中心とした方々による、子供たちが親亡き後も生まれ育った犬山で生活していけるよう、犬山に入所施設を創る活動から始まった社会福祉法人まみずの里の設立経緯について説明した。また、入所支援施設水平館整備後は、日中活動や働く場所を創るために、現在運営するひびき作業所やきりり作業所を整備していたこと、入所施設での生活から地域の中で生活できるよう、現在5軒の家屋で運営するグループホームを整備してきたこと等、法人の沿革について説明した。

また、まみずの里の支援体系について、まみずの里が運営する入所施設、通所施設の機能や各事業所が連携をとって支援していることを説明した。

(4)晴日荘の概要説明

晴日荘管理者は、晴日荘の3軒の共同生活住居の所在地、利用者の現員と日常生活自立度を含めた生活の様子について説明した。また、利用者の1日の流れについて、平日、休日のそれぞれの日課や余暇等の過ごし方、就労状況や通勤方法、利用者が行う買物の状況等について説明し、生活すること、仕事をする事、仕事で得た給料を自分のために上手に使うことがつながるよう支援していることを説明した。

晴日荘が実施している年間行事やこれまで実施した外出行事・旅行について、それぞれの目的や利用者の様子等について説明した。

(5)質疑応答

犬山市健康福祉部障害者支援課職員:「世話人さんはいつ勤務していますか。食事は世話人さんが準備していますか。」

晴日荘管理者:「世話人は朝の時間帯と夕方からの時間帯に交代で勤務しています。食事は、(配達された給食を)利用者だけで準備することができます。世話人は、見守りだけで良い時もあったり、配膳を同じ量に配るよう声をかけることもあります。」

統括:「利用者代表さんはホームに入る前に食事を作ったことがありますか。」

利用者代表:「あります。お母さんとみそ汁とかを作りました。」

統括:「年末反省会ではどういう目標にしましたか。」

利用者代表:「空心菜(の袋詰め)にしました。散歩もしています。みんなともうまくできています。」

統括:「利用者の家族代表さんは、弟さん(利用者)の様子をみてどうですか。」

利用者の家族代表:「弟と面会した時、穏やかな顔をしているので、安心して生活しているんだと感じています。その様子を見て私も安心しています。晴日荘管理者さんが話すことをよく聞いているので、信頼しているんだと思います。弟と面会すると、弟が頑張っているから、私も頑張らないといけないなという気持ちにさせてもらっています。」

統括:「グループホームで暮らし始める前と今で弟さんとの関係に変化はありますか。」

利用者の家族代表:「弟は、50代はとがっていて会うことができませんでした。今は会うことができます。小さい頃から弟の様子を見ていますが、今は頑張っていると思います。面会をするたびに、私もまた来月も頑張って会いに来ようと思っています。」

統括:「利用者の家族代表さんもうぞお体を大切になさってください。身内の血のつながったお姉さんがこれから先も本人の代弁をしていただきたいと思います。」

犬山市社協 障がい者地域相談支援センター相談専門支援員:「グループホームに入居するタイミングはどのような時ですか」

統括:「入所施設での生活をするようになった利用者は、(お母さんたちが言ったから)自分はこのままずっと入所施設で生活していくと思っていると感ずることがあります。自分の長い人生に目標がもてるよう、入所施設から家庭的な雰囲気のグループホームで生活できるように支援しています。その生活の中から、入所施設からグループホームに移る方がいます。自宅からグループホームへの入居は、片親になった時や、親が元気なうちにおいても親の保護下からグループホームでの生活に慣れるために入居する方が見えます。また反対に、グループホームの入居者が、加齢に伴って認知症を発症したり、身体機能の衰えや病気に伴い医療的ケアが必要になるなどして、入所施設や医療的ケア対応できる高齢者施設、医療機関などに移る方もみえます。」